

令和5年度 港区政策評価シート

1 政策名・所管部門

政策No	22	政策名	誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する
所管部	教育委員会事務局教育推進部	関係部	

2 政策のめざす方向性

子どもから高齢者まであらゆる世代の誰もがライフステージに応じて「する」「みる」「支える」スポーツ活動を気軽に楽しむことができるよう施策を展開し、継続的な活動へと促すことで、健康維持や体力向上につなげます。障害者のスポーツ活動への参加を促すとともに、区民が障害者スポーツを体験できる機会を創出し、障害の有無にかかわらず、相互理解や交流を広げます。スポーツ団体の活動を支援するとともに、企業や団体などとの連携により、区民が地域で仲間とスポーツを楽しむ場づくりを推進します。様々なスポーツのニーズに対応した身近にスポーツを楽しむ場を確保します。

SDGsとの関係				
----------	--	--	--	--

3 成果指標【政策について満足している区民の割合】

指標の推移		目標値		達成度 ※	※評価方法 A：中間目標値に到達しており、計画目標を達成できる可能性がある。 B：中間目標値に到達していないが、計画目標を達成できる可能性がある。 C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和元年度）も下回っているが、計画目標を達成できる可能性がある。 D：中間目標値に到達しているが、計画目標を達成できる可能性がない。 E：中間目標値を下回っており、計画目標を達成できる可能性がない。
現状値	実績	中間目標値	計画目標値		
令和元年度	令和4年度	令和4年度	令和8年度末		
28.6%	39.0%	30.9%	34.3%	A	

これまでの取組と成果
 コロナが収まりつつある中、スポーツ施設では、万全な感染症対策を講じたことで施設利用者が回復するとともに、学校施設では新たな学校を施設開放することで利用者が増加しました。また、高評価を得た地域スポーツ教室では、参加者からの意見や他地区の実施状況を反映することで満足度の高い取組を実施できました。

課題と今後の方向性
 ※未達成の場合は原因分析を含む
 ・コロナ禍においても、万全な感染症対策を講じたことで、安心して施設を利用し事業にも参加いただいたことで、区民満足度が向上したと考えられます。
 ・引き続き、誰もが気軽に身近な場所でスポーツを楽しむ施策の展開や、スポーツを楽しむ場づくりの推進を図り、区民満足度のさらなる向上に取り組めます。

4 施策の取組状況【施策評価結果】（詳細は別紙「施策評価シート」）

No	施策名	成果指標	施策評価
①	誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進	地域スポーツ教室参加者の満足度	A
②	スポーツ活動を支援する担い手の育成と団体等との連携	ポート・スポーツ・サポーターズクラブ（スポーツボランティア育成事業）の参加者数 総合型地域スポーツ・文化クラブ（スポーカル）の会員数	A
③	スポーツを楽しむ場の確保と利用促進	区立スポーツ施設の利用者数 学校施設の利用者数	A
④			
⑤			
⑥			

5 予算額・決算額・執行率（単位：千円）			
年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度
予算額	1,050,972	1,790,096	1,306,459
流用・補正	134,547	117,327	-
決算額	1,104,678	1,812,169	-
執行率	93.18%	95.01%	-

6 政策を取り巻く社会経済情勢等

<p>計画期間中の社会経済状況等の変化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・社会経済状況、人口動向、財政状況、国や東京都等の動向など 	<ul style="list-style-type: none"> ・国は令和4年、第3期スポーツ基本計画を策定し、東京2020大会のスポーツ・レガシーの発展に向け、新たな視点を示しました。 ・令和4年度は、コロナが少しずつ収まり、徐々に利用者数や参加者数が回復しました。
<p>区民ニーズ等</p> <ul style="list-style-type: none"> ・区民意識調査 ・区民から寄せられた意見など 	<ul style="list-style-type: none"> ・場所を選ばず気軽にできる運動やスポーツ活動の機会提供に関する区民要望が多くあり、多様なスポーツ施策の推進が必要です。 ・気軽にスポーツができる場の整備について、区民からの要望が多くあります。都心部港区において用地確保が困難な中、スポーツ環境の整備が求められています。

7 所管課による評価【一次評価】

<p>政策の達成状況</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・政策のめざす方向性に掲げる「誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境の整備」について、子どもから大人まで多世代で参加できる地域スポーツ教室を展開し、高い満足度を得ることができました。また、新型コロナウイルス感染症が収まりつつある中、万全な感染症対策を講じたことで、各施設の利用者数が回復し、目標到達できました。 ・政策全体として、施策1～3の目標値に到達し、政策目的を達成できています。
<p>達成状況の要因</p> <ul style="list-style-type: none"> ・施策の有効性が高かった点 ・施策の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点など 	<ul style="list-style-type: none"> ・施策「誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進」については、子どもから大人まで誰もが参加できるポッチャ等の実施により、参加者からの満足度が高く、大きな成果を得ることができました。 ・施策「スポーツ活動を支援する担い手の育成と団体等との連携」については、新型コロナウイルス感染症が落ち着き、イベント等が再開されたことでスポーツボランティアの活動やスポーカル間の交流も活性化し、参加者、会員数が増加したことで、成果を得ることができました。 ・施策「スポーツを楽しむ場の確保と利用促進」については、万全な感染症対策を講じ、どなたでも安心して施設利用できたことで施設利用者の回復につながり、大きな成果を得ることができました。
<p>課題と今後の方向性</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・子どもから高齢者まで、障害の有無に関わらず、生涯を通じて誰もが身近な場所で気軽にスポーツを楽しめるよう多様なスポーツ施策を展開していきます。 ・区民が身近な場所でスポーツを楽しめる場づくりを推進するため、大学や企業が有する施設活用の検討を進めます。 ・新たな学校施設での地域開放に向けた準備や、申込み手続きのオンライン化により、利便性向上及び利用拡大を図ります。





8 港区行政評価委員会による評価【二次評価】

<p>評価※</p>	<p>A：政策目的を十分に達成できる。</p>
<p>政策の達成度</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・これまでスポーツをしてこなかった区民に対して、オンラインによるコンテンツの配信や、近隣の学校開放を行うなどしてスポーツのハードルを下げる取組を行っていることは評価できます。
<p>今後の政策の方向性</p> <ul style="list-style-type: none"> ・重点的に取り組むべき施策など 	<ul style="list-style-type: none"> ・普段スポーツをしていない人がスポーツを楽しむようになるという点を意識して施策を展開する必要があり、この点について進捗状況を把握することが望まれます。 ・「スポーツ活動を支援する担い手の育成と団体等との連携」については、港区スポーツふれあい文化健康財団や港区体育協会との更なる連携に加え、障害者スポーツの団体との連携などにより、障害者スポーツの普及を促進していくことも重要です。

※評価の目安

政策評価	施策評価 (最も低い施策の評価で判断)	政策の成果指標の達成度
A：政策目的を十分に達成できる。		A
B：政策目的をおおむね達成できる。		C以上
C：政策目的を達成するために改善が必要である。		上記以外

施策評価シート

政策No	22	政策名	誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する
施策No	1	施策名	誰もが気軽に楽しめるスポーツ活動の推進
目標・期待する成果	どのライフステージであっても、区民一人ひとりが自身の興味、関心及び目的に応じて、いつでも、どこでも、誰とでもスポーツを楽しむことができるように、気軽にスポーツに親しめる機会を創出します。さらに、継続的なスポーツ活動へと促す取組を推進し、区民の体力向上、健康維持、増進につなげます。		
SDGsのゴールとの関係	   		
施策担当課	生涯学習スポーツ振興課		関係課
担当者名	原島・玉置	内線	2747・2750

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
地域スポーツ教室参加者の満足度	75%	98%	98%	98%	80%	85%
	達成度	当該年度の取組と成果			課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)	
令和3年度	a	令和3年度は62回実施し、1,600人の参加がありました。東京2020パラリンピック競技大会の影響もあり、特にポッチャの参加者が非常に多く、令和4年1月23日に実施した教室では障害のある方も含め、子どもから高齢者まで多くの方が参加し、高い満足度となりました。			引き続き、区民が地域で継続的にスポーツに親しみ、楽しめる環境を創出し、高い満足度を維持できるような地域スポーツ教室事業を開催します。	
令和4年度	a	令和4年度は58回実施し、1,883人の参加がありました。東京2020大会で話題となったポッチャは、障害の有無・年齢等に関わらず誰でも参加でき、人気が高く、実施地区・回数を拡大したため参加者が増加しました。他にも実施地区を増やしたこと等により高い満足度となりました。			引き続き、区民ニーズを捉えた地域スポーツ教室を実施し、障害のある方も幅広い多くの方が参加できる取組を進めます。また、いつでもどこでも気軽にスポーツを楽しむよう、オンライン配信での実施についても検討します。	
令和5年度	a	引き続き、スポーツ推進委員と協力し、区内全地区で実施するとともに、人気の高い競技を他地区でも実施するなど、より多くの方が参加したくなる、魅力的な地域スポーツ教室を実施します。また、いつでもどこでも気軽にスポーツを楽しむよう、オンライン配信での実施についても検討します。				

a : 予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b : 予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c : 中間目標値に到達する可能性がない。 - : 指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末

	達成度	当該年度の取組と成果	課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)
令和3年度			
令和4年度			
令和5年度			




a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	参加者からの意見や、他地区での実施状況を次回以降の教室に反映して実施することで、参加者の満足度は98%となりました。中間目標を達成しており、今後計画目標を達成する見込みがあることから評価はAとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	子どもから大人まで誰もが参加することができるポッチャや、幼児でも楽しめるようにスポンジボールを使用したテニス教室を実施したこと等により、参加者の高い満足度を得ることができました。
課題と今後の方向性	全体の満足度は高いものの、教室によっては参加者が少ない教室もあります。特にポッチャなど、障害のある方も参加できる教室については、障害者福祉施設への働きかけを強化するほか、SNS等を効果的に活用するなど、周知方法を見直します。今後も誰もが身近な場所でスポーツ活動を親しめるよう、区内で幅広く教室を開催し、またオンライン配信での取組も積極的に推進していきます。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	22	政策名	誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する		
施策No	2	施策名	スポーツ活動を支援する担い手の育成と団体等との連携		
目標・期待する成果	区民のスポーツ活動を支えるボランティアの育成や指導者の確保に向けた取組を推進することで、スポーツを「支える」活動を促します。また、総合型地域スポーツ・文化クラブ（スポーカル）の運営支援を行うとともに、多様な主体との連携を推進することで、地域のスポーツ活動の活性化を図ります。				
SDGsのゴールとの関係	  				
施策担当課	生涯学習スポーツ振興課		関係課		
担当者名	有地・玉置	内線	2749・2750		

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
ポート・スポーツ・サポーターズクラブ（スポーツボランティア育成事業）の参加者数	64人/年	58人/年	195人/年	220人/年	200人/年	250人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	東京2020大会の開催年のため、講座回数を減らしたうえで、実施方法を工夫しながら、救命講習や障害者対応を学ぶ講座を実施したことで、一定程度の参加者がありました。また、オリンピックによるスポーツ教室でのボランティア活動などの実践活動を2回実施したことで、スポーツボランティアとしてのスキル向上を図りました。		新型コロナウイルスの影響により、活動の場や講座への参加者が少ない状況でしたが、今後、講座の回数を増やすほか、ボランティアの情報発信を強化し、実践活動の場の確保を積極的に進めてまいります。		
令和4年度	a	コロナが落ち着いてきたことで、大会やイベントが開催・再開し、活動の場を多く確保でき、実践活動参加者数が増加しました。また登録制としたことに加え、登録者のスキルに応じた講座内容としたことで、講座参加者数が増加しました。		さらに登録者を増加させるためには、ホームページやSNS等での周知をより充実させることに加え、中高生でも参加できるよう登録年齢の引き下げについて検討します。また、実践活動の場や機会を確保するため、大会主催者等への直接的な情報提供について検討します。		
令和5年度	a	登録者増加に向けた取組として、ホームページやSNS等での情報発信の充実を図ります。また、活動の場を広げるため、大会やイベントの情報収集を行うとともに、ボランティアを求める団体や企業に対する情報発信を強化します。		/		

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
総合型地域スポーツ・文化クラブ（スポーカル）の会員数	591人	807人	1,011人	1,315人	840人	930人
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	スポーカルの会員増加や認知度向上を目的として周知・体験イベントを実施しました。また、各競技団体と連携しながら事業を実施することで、会員数が増加するとともに、4つ目のクラブ設立の目途が立ちました。		引き続き、各競技団体と連携した事業に取り組むとともに、令和5年度に4つ目のクラブを設立できるよう、設立準備委員会の開催、調整等を進めます。		
令和4年度	a	コロナが落ち着いてきたことにより、既存のスポーカル（3団体）については、各競技団体との連携事業を実施するとともに、スポーカル同士の交流の機会を創出することができました。また、新たなスポーカル（三田地区）の設立準備を開始しました。		引き続き、各競技団体との連携事業やスポーカル間の交流を継続するとともに、令和5年度中に新たなスポーカルを三田地区に設立できるよう、地域と行政が一体となり設立準備を進めます。		
令和5年度	a	既存のスポーカル（3団体）については、引き続き各団体の運営を支援するとともに、連携事業を継続実施します。また、(仮称)スポーカル三田の設立に向け、既存のスポーカルや各競技団体等との連携を促し、地域ニーズを反映した活動ができるよう支援します。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが落ち着いたため、ボランティアの活動の場となる大会やイベントが開催されたことで、参加者数が増加しました。また、各スポーカルにおける連携事業の実施やスポーカル間の交流機会の創出により活動が活性化されたため、会員数が増加しました。 ・施策の評価は、成果指標①及び②ともに、中間目標値を達成できる見込みであることから、Aとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・成果指標①（スポーツボランティアの参加者数）は、MINATOシティハーフマラソンをはじめとする大会やイベントが開催されたこと、さらに、スキルに応じた講座を実施したことで、参加者数が増加し大きな成果が得られました。 ・成果指標②（スポーカルの会員数）は、連携事業の継続的な実施等により活動が活性化することで、会員数の増加につながり、中間目標値を既に達成しています。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・スポーツボランティアを育成するため、ポート・スポーツ・サポーターズクラブの登録者増加に向けた周知の充実や対象拡大のための検討のほか、活動の場を確保するため、大会主催者に向けた情報発信等に取り組むことで、スポーツを支える活動を促進します。 ・総合型地域スポーツ・文化クラブ（スポーカル）においては、身近な場所でより多くの方が楽しみながら参加できるように活動を支援し、スポーツだけでなく文化種目も取り入れ、スポーカル全体の活動の活性化と会員数増加を目指します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。

施策評価シート

政策No	22	政策名	誰もがスポーツを楽しむことができる機会の確保と環境を整備する
施策No	3	施策名	スポーツを楽しむ場の確保と利用促進
目標・期待する成果	区立スポーツ施設等の計画的な整備と充実、学校施設の活用を通じて、区民が身近で安全にスポーツができる環境を整備します。また、区内の既存施設の活用や大学、企業などとの連携により、区民のスポーツ活動の場の拡大を図ります。		
SDGsのゴールとの関係	  		
施策担当課	生涯学習スポーツ振興課		関係課
担当者名	本間・玉置	内線	2752・2750

1 成果指標の達成度

成果指標①	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
区立スポーツ施設の利用者数	677,877人/年	765,898人/年	977,008人/年	990,000人/年	940,000人/年	985,000人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	b	新型コロナウイルス感染症の影響で、港区スポーツセンター及び氷川武道場は時短営業及び臨時休館、港区立運動場は時短営業により運営しました。令和3年11月から麻布運動場、芝浦中央公園運動場、芝公園多目的運動場において利用時間の拡大を行い、区内でスポーツができる場を確保しました。		利用者自身の施設利用自粛のため、施設の利用者数は目標を下回っています。東京2020大会開催後のレガシーイベントや教室事業のオンライン化を契機として、実際にイベントに参加してスポーツを楽しむとともに、自宅等の身近な場所でスポーツを楽しむことができる機会を増やすことで、さらに施設利用者が増加するように努めます。		
令和4年度	a	コロナの影響が収まるとともに、コロナ対策を講じたことで施設利用者が戻り始めて昨年度より増えた一方、麻布運動場野球場人工芝化工事や設備改修工事により休場期間が発生し、施設利用者は減少しましたが、全体の利用者は大幅に増加し、スポーツ活動の場を確保できました。		誰もが身近な場所でスポーツを楽しむことができるよう教室内容の充実に向けて検討します。また、スポーツ施設の老朽化や不具合の発生が頻発するため、利用者が安定的に施設利用できるように計画的な改修工事を実施できるよう検討します。		
令和5年度	a	親子で参加できる教室開催の検討や働き盛り世代の人でも参加しやすい時間帯での教室開催やオンライン教室を実施します。また、施設や設備の老朽化に合わせ、計画的な改修工事を実施できるよう運動施設・設備の予防保全計画を策定を検討し、より安全にスポーツができる環境を整備していきます。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

成果指標②	指標の推移				目標値	
	現状値	実績		見込値	中間目標値	計画目標値
	令和2年度	令和3年度	令和4年度	令和5年度	令和5年度	令和8年度末
学校施設の利用者数	268,325人/年	417,191人/年	552,740人/年	555,000人/年	365,800人/年	382,600人/年
	達成度	当該年度の取組と成果		課題と今後の方向性 (未達成の場合は原因分析を含む)		
令和3年度	a	新型コロナウイルス感染症の影響で、令和3年4月25日から6月20日まで開放を休止しましたが、再開後は学校施設開放を通じて、区民の多様なスポーツ活動の場を提供することができました。		今後、申込みのオンライン化に伴うシステムの仕様や使用時間枠等の見直し等を検討します。あわせて、学校施設の有効な活用方法を検討し、学校施設開放の考え方を整理することで、引き続き、より多くの区民が学校施設を利用しやすい環境を整備していきます。		
令和4年度	a	学校施設開放の使用団体の利便性向上及び学校の負担軽減を図るため、申込みのオンライン化を図り、かつ開放時間、開放方法等の運用見直しに向け、検討しました。また、新たに芝浜小学校及び赤坂中学校の地域開放を開始し、区民のスポーツ活動の環境を整備しました。		身近な場所でのスポーツの場の確保と利便性向上を図り、学校施設開放の利用者拡大を図るため、運用の見直しを行うほか、令和5年度には施設予約システムを導入します。こうしたことにより、学校施設を利用しやすい環境を整備します。		
令和5年度	a	令和4年度に検討した学校施設開放の見直しの方向性を踏まえ、関係する条例等を改正し、10月からシステムによる予約受付を開始します。 赤羽小学校の新校舎における開放を6月から開始するほか、令和6年4月の御田小学校の仮校舎（旧三光小学校）移転を踏まえ、開放準備を進めます。				

a：予定どおり中間目標値に到達する見込みである。 b：予定どおりの成果が出ていないが、改善により中間目標値に到達する見込みである。
c：中間目標値に到達する可能性がない。 -：指標値を把握できない。

2 施策評価

評価	A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
施策の達成状況	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナが収まりつつある中、スポーツ施設では、万全な感染対策を講じたことで施設利用者が回復し、また学校施設では、新たな学校施設が開放することで利用者が増加しました。 ・施策の評価は、成果指標①及び②ともに、中間目標値を達成できる見込みであることから、Aとしました。
達成状況の要因 ・取組の有効性が高かった点 ・取組の有効性が低かった点 ・外部要因の影響を受けた点 など	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ対策として、入館時の検温の実施、体調チェックシートの活用及びマスク着用の呼び掛けにより、万全な感染症対策を講じ、どなたでも安心して施設利用いただきました。 ・新たな学校施設を開放することで、区民に対し、スポーツをする環境を提供することができました。
課題と今後の方向性	<ul style="list-style-type: none"> ・大学や企業と連携し、区立スポーツ施設に限らず、大学や企業が有する施設の活用を検討していきます。 ・新たな学校施設の地域開放の準備を進めるとともに、申込みのオンライン化を図ることで、区民が学校施設を利用しやすい環境を整備します。

A：中間目標値に到達し、計画目標値の達成可能性がある。
B：中間目標値に到達しないが、計画目標値の達成可能性がある。
C：中間目標値に到達せず、かつ、現状値（令和2年度）も下回るが、計画目標値の達成可能性がある。
D：中間目標値に到達するが、計画目標値の達成可能性がない。
E：中間目標値を下回り、計画目標値の達成可能性がない。